

かび抵抗性試験(JIS Z 2911)が改正されました!

かび抵抗性を必要とする工業製品又は工業材料のかびに対する抵抗性の試験方法を規定するJIS Z 2911が、2023年11月20日に改正されました。本試験は、一般工業製品、繊維製品、プラスチック製品などの様々な工業製品を対象としており、一般社団法人抗菌製品技術協議会のSIAA防カビ加工製品の登録にも採用されています。

改正の主なポイントについてご紹介致します。

改正ポイントをまとめたケン!



	2018年版(旧)	2023年版(改正)
試験かびの名称変更	<i>Eurotium tonophilum</i> <i>Penicillium pinophilum</i>	<i>Aspergillus tonophilus</i> <i>Talaromyces pinophilus</i> ※1
プラスチック製品の試験		
試料サイズ	—	5 cm×5 cm ※2
試験方法の種類	A, B及びB'の3種類	AとBの2種類 B'法は廃止されました。
方法Aの試験条件	無機塩寒天培地上に 試料を設置して試験。	シャーレに 直接試料を設置して試験。 寒天培地は使用しなくなりました。
評価方法	0, 1, 2, 3, 4, 5 の6段階	0, 1(a,b,c), 2, 3, 4, 5 の6段階 評価1(顕微鏡下で認められる場合) は、1a~1cに細分化。
	肉眼及び顕微鏡による観察	肉眼及び顕微鏡による観察 肉眼での観察時はグリッド (5cm×5cmを100個分割)を用いて評価。 なお、外周36個は評価からは除外。

※1 試験かびの名称が変更になり、報告書記載名が変更されます。
→名称は変更となっておりますが、試験に使用する菌株は2018年版と同じかびとなります。

※2 試料サイズが固定になりました。
→5cm×5cmの試料になります。

次のページでは
試験方法と概要の
ご紹介をしていきます!





プラスチック製品の試験概要ご紹介

評価ご依頼の多いプラスチック製品の試験に関して、方法AとBの試験概要と違いについて簡単にご紹介致します。

方法Aは試料以外に有機物が存在しない状況下での試料のかび抵抗性の評価を目的としており、方法Bは炭素源(グルコース)を含む培地存在下で試料のかび発育抑制効果の評価を目的としています。

	方法A	方法B
条件		
試験かび	5種類混合 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Talaromyces pinophilus</i> , <i>Paecilomyces variotii</i> , <i>Trichoderma virens</i> , <i>Chaetomium globosum</i>)	
試料	5cm×5cm	
栄養分	少ない(無機塩溶液)	多い(グルコースを含む無機塩)
培養	29℃, 相対湿度95%以上で4週間培養(又はそれ以上)	
評価	0, 1(a,b,c), 2, 3, 4, 5の6段階	
試験手順		
STEP1	試料をシャーレ内に設置 ※必要に応じて試料の清浄化を実施	試料をグルコースを含む寒天培地上に設置
STEP2	混合孢子懸濁液(無機塩溶液)を試料上に接種	混合孢子懸濁液(グルコースを含む無機塩溶液)を試料上及び培地上に接種
STEP3	4週間培養	
STEP4	肉眼及び顕微鏡により観察し、かびの発育状態を評価 肉眼での観察時はグリッド(5cm×5cmを100個分割)を用いて評価。 なお、外周36個は評価からは除外。	

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。